

宝石学会（日本）ニュースレター

第7号 2016年6月

平成28年度講演会・総会・見学会報告

講演会

期日：平成28年6月11日（土）

会場：北海道大学工学部フロンティア応用研究棟
鈴木ホール

参加者：52名

講演：特別講演1件、一般講演15件

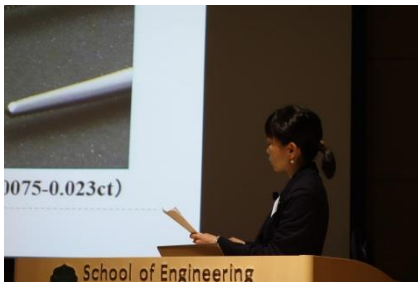


特別講演会の様子

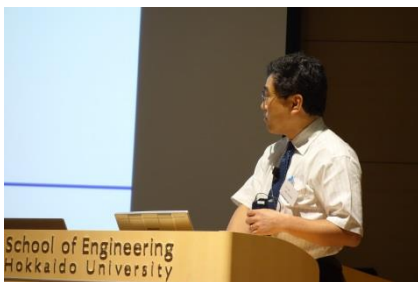
講演者写真



「メレサイズの合成ダイヤモンドについて」小川日出丸会員



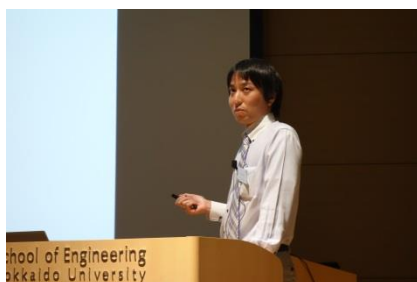
「メレサイズの無色～ほぼ無色 HPHT 法合成ダイヤモンド」
久永美生会員



「光路分割及び散乱異方性としての宝石評価法の提案(3)」
川口昭夫会員



「LIBS を用いたジュエリー分野の応用分析」李宝炫会員



「LIBS 分析の宝石素材への応用」福田千紘会員



「判別分析を用いた天然・合成アメシストの鑑別」
江森健太郎会員



「Herkimer Diamond で代表される両錐水晶の蛍光性」
萩原成騎会員



特別講演「宇宙の宝石～実験天文学から「はやぶさ2」まで」
橋省吾北海道大学准教授



「かつて製造された合成エメラルドについて」 林政彦会員



「タンザナイトやその他のカラーのゾイサイトの色の分析とDブロックの採掘状況について」 高興和会員



「過去5年間のCGLにおける宝石鑑別依頼内容にみられた国内宝石市場動向」 水野拓也会員



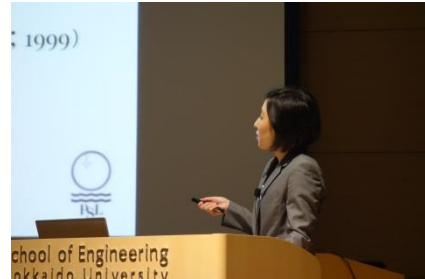
「石川県小松市赤瀬から産出するブルーオパール」 中嶋彩乃会員



「漂白によるクロチョウガイの色素変化について」 山本亮会員



「螺鈿に使われる貝殻の分析—主にヤコウガイ、アワビについて」 矢崎純子会員



「真珠の「テリ」について～テリ向上へのアプローチ」 南條沙也香会員

総会

評議員の各担当者、会計監事より以下のとおり報告があり、原案どおり承認された

監査を受けた昨年度の決算、および今年度の予算は要旨集記載のとおり。

会計監査は長年、澤井寿哉氏（真珠総合研究所）にお願いしているが、今年度より齊藤宏氏（エージェンティージェムラボラトリー）にも監事になっていただく。

事業について、昨年度は、総会・講演会のほか、ニュースレターの発行、シンポジウムが行われたが、学会誌の発行は今年度にずれこんだ。今年度は、昨年度同様の事業を予定しているが、さらに追加事業も考えていきたいので、参加者にアンケートをお願いした（アンケート結果は下に記載）。

会員状況について、要旨集のとおり、会員数は4名の増加。

学会誌論文データベースが国立情報学研究所電子図書館(CiNii)から科学技術振興機構(JST)のJ-STAGEへ移行される。

来年度の講演会・総会は東京で開催の予定。

奨励賞の表彰が次のとおり行われた。

奨励賞受賞者：山本亮さん

真珠に関する研究において優れた発表を続けておられるため。



奨励賞授与

懇親会

会場：キリンビール園本館中島公園店

参加者：45 名



懇親会の様子

見学会：6月12日（日）

参加者：31 名

見学先：石狩浜（琥珀をめざし砂浜を散策）。

三笠ジオパーク（三笠市博物館、野外博物館のガイドツアー）



幹事からの所感

講演会では、多くの興味深い講演が行われた。講演概要は要旨集でわかるにしても実際、講演を聞いてみると要旨を読むだけとはちがい発表も記憶に残りやすく、参加の意義は大きいことを改めて認識した。

特別講演は直接に宝石に関するものではなかったが、広大な宇宙の星の一生を研究している天体の観測の中でもフォルステライトやエンスタタイトなど鉱物が同定されていることには驚いた。またハッブル望遠鏡で撮影された星の一生がみえる美しい画像も印象的であった。

一般講演でもいくつかのことが記憶に残った。メレサイズの高压合成ダイヤモンドが宝飾品の中にみられるようになっており、その鑑別が今、大きな問題になっていること。今後の動向が気になるところである。

自分の専門外のことも聞いていると疑問がわいてきて関心が引き起こされることもあった。

例えば、二枚貝と巻貝。今更何をと思うが、形は全く違うのに同じ貝である。何が同じで何が違い、その理由は何か、と気にしだすと貝にも興味がわいてくる。

また、今回、韓国よりイ・ボヒュンさんが参加され、昨年、新しく設立されたソウルジュエリーセンターの紹介があった。韓国の宝石業界の今後の動向も気になる。

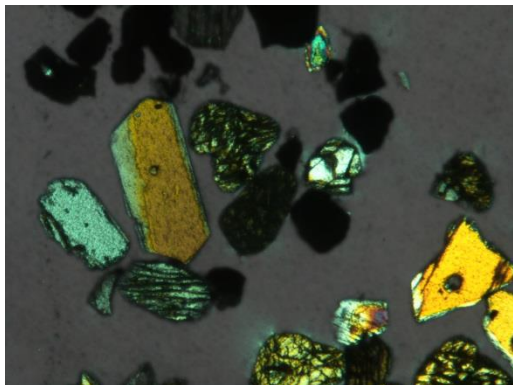
見学会でも興味深い収穫があった。石狩浜で琥珀が見つかるかもしれないとの期待で、砂浜を腰を曲げながら歩いた。琥珀らしいものを見つけた人もいたが、私は見つけることができなかった。しかし、砂の模様がなんとも美しかった。風が適度に強かったため風紋ができ、その砂には黒い砂鉄（磁鉄鉱？）が多量に含まれていたため、風紋が黒白の縞模様になっていた。時折、顔を上げると、遠くに雪をかぶった山がみえる広大な海岸線の風景はさすが北の大地であった。

午後の三笠ジオパーク見学では、まず巨大なアンモナイト標本に圧倒された。1メートルはあるような貴重な標本を触って見学できるとはもったいない体験である。大きな標本を採取するとき、破碎して運ぶ、という説明には、まさか、と信じられなかった。

屋外の見学も好天に恵まれ気持ちのよいものであった。エゾハルゼミという蝉のにぎやかな声を聴きながら、草木が精いっぱい葉を広げたゆたかな緑で覆われた溪流沿いを歩いた。ところどころで特徴的な地層の褶曲や炭鉱の遺跡をガイドの方から説明を受けてよい勉強になった。かつては石炭が産業発展の原動力であったことを思い出した。近頃は、石炭を知らない子供もいるらしい。「黒いダイヤ」も死語になってしまったかもしれない。

（神田久生）

石狩海岸の砂の構成鉱物：砂を樹脂で固めて薄片を製作したところ、下図の偏光顕微鏡写真（直交ニコル、幅約1mm）のように角閃石と輝石（直方と単斜）が確認できました。さらに岩石片や石英・磁鉄鉱も見られました。なお、石炭（人工物？）はありましたが、残念ながら琥珀は見つかりませんでした。（林政彦）



平成28年度宝石学会(日本)アンケート集計結果

回答数 19 名

1. 宝石学会（日本）シンポジウムについて

(1) 聴講したいテーマは何でしょうか？

- ・ 日本人の宝飾文化
- ・ 真珠
- ・ 天然・合成鉱物の発色
- ・ 蛍光発色の研究について、有機物の発光についてメカニズムなど
- ・ 合成ダイヤモンドなどの鑑別方法
- ・ ダイヤモンド、色石
- ・ 色石について（合成、鑑別など）
- ・ ダイヤモンド以外の宝石の細かなデータなどがあると嬉しい
- ・ コランダム産地について
- ・ 宝石と人間
- ・ 最近の宝石の処理方法について
- ・ 合成ダイヤモンド、こはく、真珠、色石の産地や現状、処理

(2) シンポジウムのスケジュールについて○をつけてください

- ・ 平日がよい 5 名
- ・ 土・日・祝日がよい 13 名

(3) シンポジウムが行われる頻度について○をつけてください

- ・ 年1度がよい 12 名
- ・ 年2回がよい 4 名
- ・ 年3～4回がよい 1 名

(4) 開催場所について○をつけてください。

- ・ 東京地区 11 名
- ・ 東京地区以外 6 名

（各主要都市、北海道、神戸、伊勢、長崎）

(5) シンポジウム開催について意見があればご記入ください。

- ・ もっと外国からの参加者が増えればよい。
- ・ 平日に開催されるなら、東京で仕事が終わってから参加できる時間だと嬉しいです。土日祝日なら東京以外でも。

2. その他の活動について

- ・ 現在進行中の研究についての意見交換会 5 名
 - ・ 有志での勉強会（論文の輪読など） 2 名
 - ・ その他 1 名
- 宝石の産出地(鉱山など)を訪れる見学ツアーなどの特別な機会があれば嬉しいです。

アンケートについて、回答をくださった方、ありがとうございました。ご意見を反映して活動を続けたいと思います。

シンポジウムは今年も年末頃、東京で開催を考えています。東京以外の地域での開催希望もありましたので、その方向での開催も検討したいと思います。講演会・総会とセットでのシンポジウム実施ということも考えられます。

意見交換会や勉強会の開催希望もありました。仕事帰りや休日に、気楽に集える会もよいかもしれません。引き続き、皆さまからのご意見、ご希望をよろしくお願いいたします。

最後に

今回の札幌での開催にあたっては、北海道大学の川野潤准教授、内田努准教授に、講演会会場、懇親会、見学会などすべてにわたって、大変お世話になりました。（神田久生）

本ニュースレターの著作権は本学会が所有しますが、著名入り記事の執筆責任はそれぞれの著者にあります。

宝石学会（日本）ニュースレター（第6号）

2016年6月 発行

編集：神田久生、渥美郁男、江森健太郎、北脇裕士、高橋泰、林政彦、古屋正貴、矢崎純子、山本亮

発行：宝石学会（日本）

〒110-0005

東京都台東区上野 3-20-8 小島ビル 6 階